

## スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	広島大学
整理番号	A10
構 想 名	世界をキャンパスとして展開する広島大学改革構想

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価）  <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">A</span>	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、教育力と研究力の強化を大学改革の両輪とし、徹底した国際化の取組みにより、世界トップ 100 の総合力を有する大学へ変化するために進められたものとなっている。その事業展開に当たっても、(1)大学改革、(2)教育改革、(3)国際通用性の3つを重点戦略に据えることで、事業開始当初から学長のリーダーシップの下で全学的に取り組むことで、本事業の成果指標でも多くの目標を達成し、一定の成果が表れていることは評価できる。また、それらの戦略を推進することで、世界中から志の高い学生や研究者を惹きつける「グローバルキャンパス」の体制が整備されたものとなっている。 具体的には、戦略(1)に関しては、全学人事委員会の設置や研究領域の統合により、部局に縛られない全学的管理を可能としたこと、独自の客観的評価ツール（目標達成型重要業績指標（A-KPI®）、教員エフォート指標（B-KPI®））によるパフォーマンスの可視化などの施策を迅速に断行し、教職員のモチベーション向上の動機付けとなっている。戦略(2)に関しては、3階層のTA制度を整備することにより、国内外の学生の経済的支援とともに、グローバルな教育活動の機会を提供可能とした。戦略(3)に関しては、海外拠点やサテライトキャンパスの新設、あるいは国際機関との連携を拡大してきたことで、今後の大学の国際通用性や、国際的なネットワーク強化、学生への海外経験の機会提供などの観点で意義が大きいと言える。 また、「Town & Gown 構想」を掲げ、地域関係者とのコンソーシアムを各地域で設立し、実証実験などを進めていることも、地域連携強化や大学のプレゼンス向上の観点で評価できる。今後も連携強化された中四国地域を中心にグッドプラクティス等の横展開を貴学がリードすることを期待する。 一方で、国際化の観点では、コロナ渦の影響を鑑みても、日本人学生の送り出しに関する項目が低調なままである。海外拠点や、「森戸国際高等教育学院 3+1 プログラム」の活用等を通じて、学生への機会提供と動機付けを一層強化することを期待する。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	